

研究 研修 部 だ よ り

オンライン研修

肢体不自由を伴う
盲ろう児童の教育実践

2024年12月26日に令和6年度 第2回盲ろう教育実践セミナーが行われました。以下、視聴された上山先生からの報告です。

〔研修内容〕

- 1 福島県立平支援学校について
- 2 対象児について
- 3 教育実践について
 - (1)環境づくり
 - (2)コミュニケーション手段
 - (3)授業づくり
 - (4)行事の参加
- 4 3年間の関わりで悩んだこと・大切だと思ったこと

〔共有したい内容〕

【環境】

- 子どもが安心できる環境を作ること（自分の居場所等）
- オブジェクトキューや個々に応じたタッチキュー（身体の一部を触ることで行動や活動の予告を行うもの）を教員で共有して活動する

2人の場所について

○児童が分かりやすい環境づくりについて



タッチキュー(A児)

<イメージをイラストで掲示している>

内容	手段
身体を起こす	「3・2・1」の言葉とともに両手を3回引っ張る。
抱っこ	「3・2・1そろれ。」の言葉とともに顔の下に手を入れて合図を送る。
水分	口の周りを円を描くように2回触れる。
顔拭き	顔に円を描くように2回触れる。
始めます	自分の右手で左肩を2回触れる。
おしまい	左手の甲を右手で2回なでる。



【授業づくり】

～児童が主体的に取り組む授業～

- 児童にとっても学ぶことの意味のある活動

→「何をするかが分かる」学習設定
「できた!」と感じられる結果の選定

- やりたくなる仕掛けを

・好きなものを取り入れることは有効。

- ベテランの教員に相談し、アドバイスをもらうことも大切

- 児童が思考する時間を確保すること
→思考している姿を把握していることで安心して教員は待つことができる。

- 教員はアンテナを高くして子どもを観察する

【行事の参加】

- 日頃から情報を共有して理解を得る
→教員間で情報を共有して理解を得ることで、必要な支援を行うことができる。

- 集団の中でも発揮できる場面を作る
→情報を受け取ることが多く、受け身になりがちになる。子どもが自分の力を発揮する場面づくりが大切。

※本文中の資料はセミナー資料「肢体不自由を伴う盲ろう児童の教育実践 福島県立平支援学校 教諭 伊藤瑞希」を引用